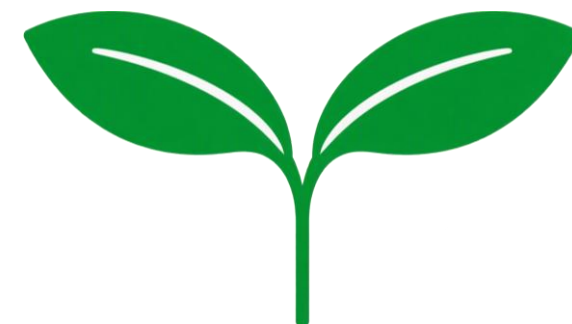


未来ビジョン

2050

～売上高1,000億円企業へ～

長期経営計画 2027年度～2035年度



2026.10.27

目次

I . 長期経営計画 (2027年度～2035年度)	2
II . 第1次3ヵ年経営計画(骨子) (2027年度～2029年度)	8
(参考) 当社の強み	12

なお、長期業績目標および第1次3ヵ年経営計画における経営目標、事業戦略、キャッシュ・アロケーション等については、2027年1月13日に公表する予定です

I . 長期経営計画

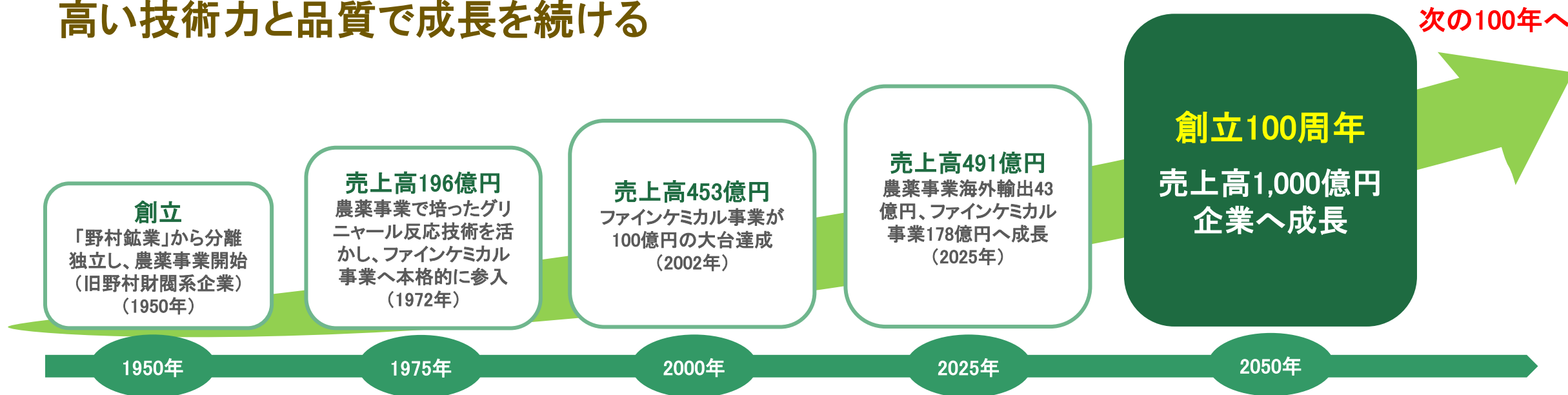
(2027年度～2035年度)

I. 長期経営計画(2027年度～2035年度)

【長期ビジョン】

未来ビジョン2050 ～売上高1,000億円企業へ～

高い技術力と品質で成長を続ける



コンセプト

- ・ 創立100周年を迎える2050年までに売上高1,000億円企業へ成長し、さらに次の100年に向かって成長を続ける
- ・ 成長投資および研究開発への経営資源の投下を拡大し、成長性を高める。加えて、資本効率向上および株主還元拡充にさらに舵を切り、中長期的な企業価値の向上および時価総額の増大を目指す
- ・ グローバル市場での事業成長および時価総額の増大を図り、2030年を目途とするプライム市場への移行を視野に入れる



I. 長期経営計画(2027年度～2035年度)

【三つの壁と新たな成長ストーリー】

壁(現状の課題)

01 農薬事業では、主力保有原体が2つに留まり、海外売上高は増加傾向にあるものの、依然として低い水準にある



新たな成長ストーリー

主力原体カスガマイシンについては天然物由来の特性を活かした拡販、成長ドライバーであるイプフェンカルバゾンについては登録国拡大・普及推進を続けるとともに、研究開発投資を拡充して新たな自社原体を創製し、国内および成長する海外市場へ展開する

02 ファインケミカル事業では、岡山工場における合成プラント建設余力が限界に達している。また、既存技術・製品に加えた新領域の開拓がなければ成長性が限られる



岡山工場に続く新たなフラッグシップ拠点を取得し、持続的な生産能力増強(弛まぬ合成プラント建設)と研究開発強化を可能にする新拠点構想を実現する

03 財務の健全性強化を優先的に進めてきたことから、成長投資や研究開発投資を慎重にコントロールしてきた

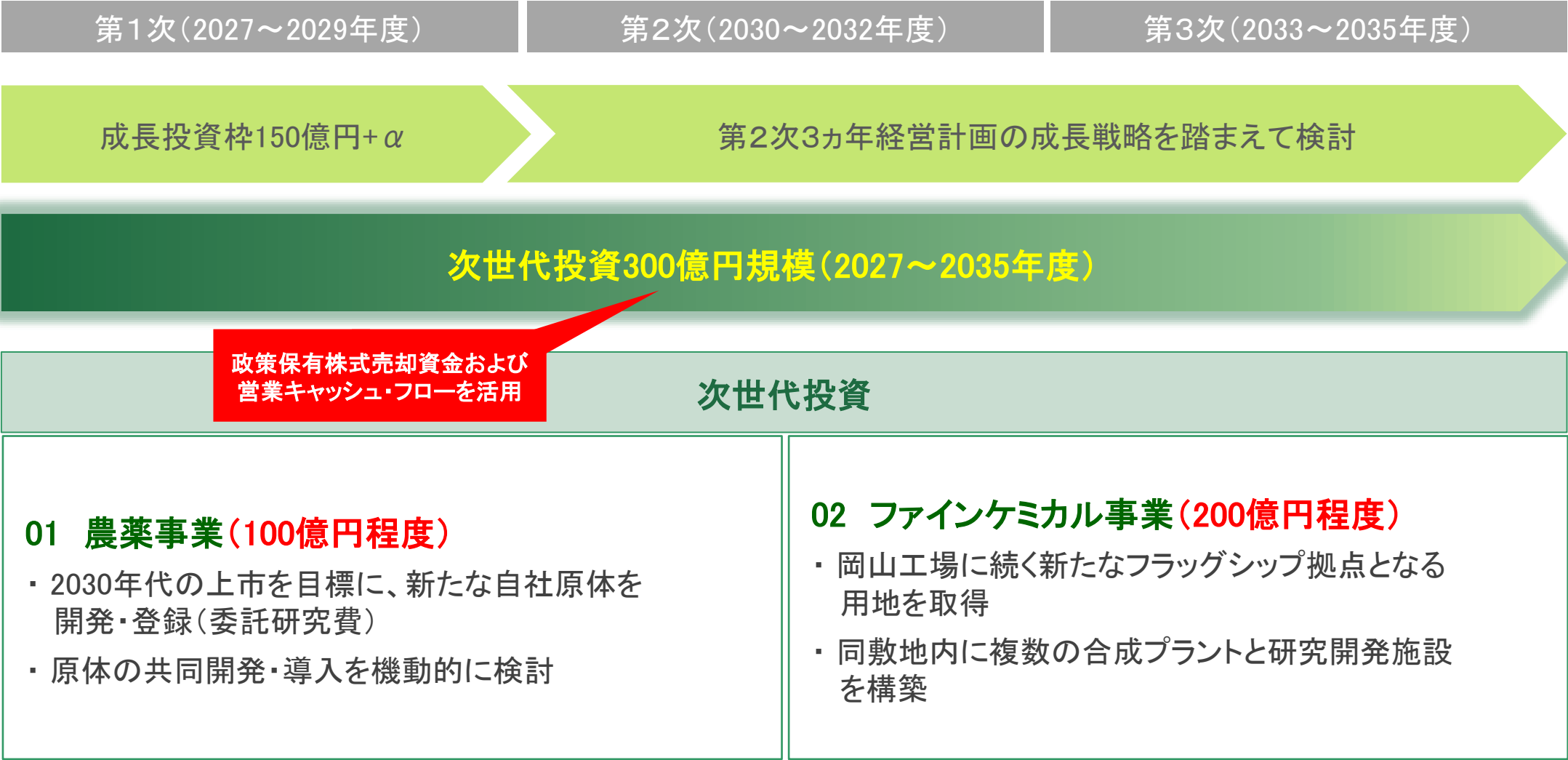


資本効率向上にさらに舵を切り、底上げされたキャッシュフロー創出力および政策保有株式縮減の資金を活用し、より次世代を見据えた観点で、成長投資や研究開発への経営資源投下を拡大する



I . 長期経営計画(2027年度～2035年度)

【成長投資戦略】



I. 長期経営計画(2027年度～2035年度)

【ゴールのあるべき姿(2035年)】

01 全社

- ・ 当社の強みである高い技術力と品質を磨き続け、農業および産業界でのプレゼンスが一層高まり、国内およびグローバルな市場での成長が実現している
- ・ すべての従業員が当社の技術力・品質・サービスへの誇りと挑戦の意識を持ち、安全で働きやすい職場、多様性を高めた職場が実現している
- ・ 徹底した業務効率化と設備の自動化・システム化により、生産性が大きく向上し、少数精鋭の中で事業規模の拡大が続いている

02 農薬事業

- ・ 事業構造改革を完遂し、生産体制の効率化による製造原価低減が実現している
- ・ 当社独自の新製剤による受託事業の拡大と、イプフェンカルバゾンの拡販による海外輸出の拡大が実現している
- ・ 新たな自社原体の開発・登録、原体取得および当社独自新製剤の製品化が実現している

03 ファインケミカル事業

- ・ 岡山工場のファインケミカル事業専用化完了に続き、新たなフラッグシップ拠点となる用地を取得し、弛まぬ合成プラント建設により、生産能力増強が実現している
- ・ 半導体素材のラインナップ拡充、自社製品創製、周辺領域への事業拡大により、電子材料分野が高成長事業へ発展している
- ・ 研究開発体制の強化により、コア技術であるグリニャール反応の深化と新技術の獲得が実現している



I . 長期経営計画(2027年度～2035年度)
【ゴールのあるべき姿(2035年)】

04 サステナビリティ

企業理念	「社会貢献」「環境」「技術」を経営のキーワードとし、すべての人々の幸せのため、食糧の安定供給に寄与する安全で安心な農薬製品および産業活動を幅広く支えるファインケミカル製品を社会へ提供していきます。		
社会への価値提供	持続可能な農業の支援 【農薬事業】	産業の技術革新への貢献 【ファインケミカル事業】	産業の発展と豊かな社会づくり 【繊維資材事業】
	➤ 省力化志向「楽粒®」の普及 ➤ 環境負荷低減製品の開発 ・ 天然物由来製品、新製剤技術	➤ 成長分野への製品拡充・新技術開発 ・ 半導体関連素材の開発・提供 ・ エネルギー関連素材の開発・提供	➤ リサイクル繊維の使用率向上 ・ 環境配慮型再生繊維素材の拡充
社会貢献	気候変動(TCFD)への対応 ～リスク・機会の影響評価、対策の高度化～		
	カーボンニュートラル・省エネ推進 【GHG排出量削減目標】 2030年22%削減(2013年度比)、2050年カーボンニュートラル 新技術導入(エネルギー効率化)、再生油活用、設備の省エネ化、燃料転換・太陽光発電等		
	CSR調達の推進		
人的資本	人材育成方針 ・ 自律型・専門人材の育成・キャリア支援 ・ 研修体制の拡充 ・ 福利厚生等エンゲージメントの強化	社内環境整備方針 ・ 人的資本経営の推進 ・ 女性人材の活躍推進 ・ 労働安全の確保 ・ コンプライアンスの徹底 ・ 健康経営の推進	
	「持続可能な社会の実現」と「持続的な企業価値向上」の好循環実現に向け、サステナビリティを向上する		

Ⅱ．第1次3カ年経営計画（骨子） （2027年度～2029年度）

【骨子①】

「未来ビジョン2050 ～売上高1,000億円企業へ～」

第1次3カ年経営計画(2027～2029年度) ～売上高1,000億円企業への成長軌道構築～

農薬事業とファインケミカル事業を両輪とした経営を進化 ～相互補完の事業構造で安定成長～

成長投資拡大

次世代投資(2027～2035年度)300億円規模、成長投資枠(2027～2029年度)150億円+α

農薬事業

自社原体の開発と海外売上高の拡大

01 農薬事業

- ・ 新たな自社原体の開発と海外輸出の拡大
- ・ 生産体制の再構築による製造原価低減
- ・ 独自製剤技術を活用した受託事業の拡大

ファインケミカル事業

電子材料分野を軸とした成長市場での事業拡大

02 ファインケミカル事業

- ・ 半導体素材の売上高拡大
- ・ 岡山工場のファインケミカル事業専用化の実現と新たなフラッグシップ拠点構想(岡山工場と同規模)の展開
- ・ 研究開発体制強化によるコア技術の深化と新技術の獲得



【骨子②】

「未来ビジョン2050 ～売上高1,000億円企業へ～」

第1次3カ年経営計画(2027～2029年度) ～売上高1,000億円企業への成長軌道構築～

資本効率向上および株主還元拡充にさらに舵を切る

01 政策保有株式の縮減

- ・ 2030年度までに政策保有株式の対連結純資産比率を20%未満へ縮減
- ・ 売却資金は、より次世代を見据えた成長投資・研究開発投資に活用

02 資本収益性の向上

- ・ 事業再構築と成長投資を軸に収益力向上
- ・ バランスシートコントロール(政策保有株式縮減、株主還元拡充)

03 株主還元の拡充

- ・ 2029年度の特別損益を除く連結配当性向目標を40%とする。
- ・ 累進配当方針の継続

中長期的な企業価値向上および時価総額の増大

グローバル市場での事業成長および時価総額の増大を図り、2030年を目途とするプライム市場への移行を視野に入れる

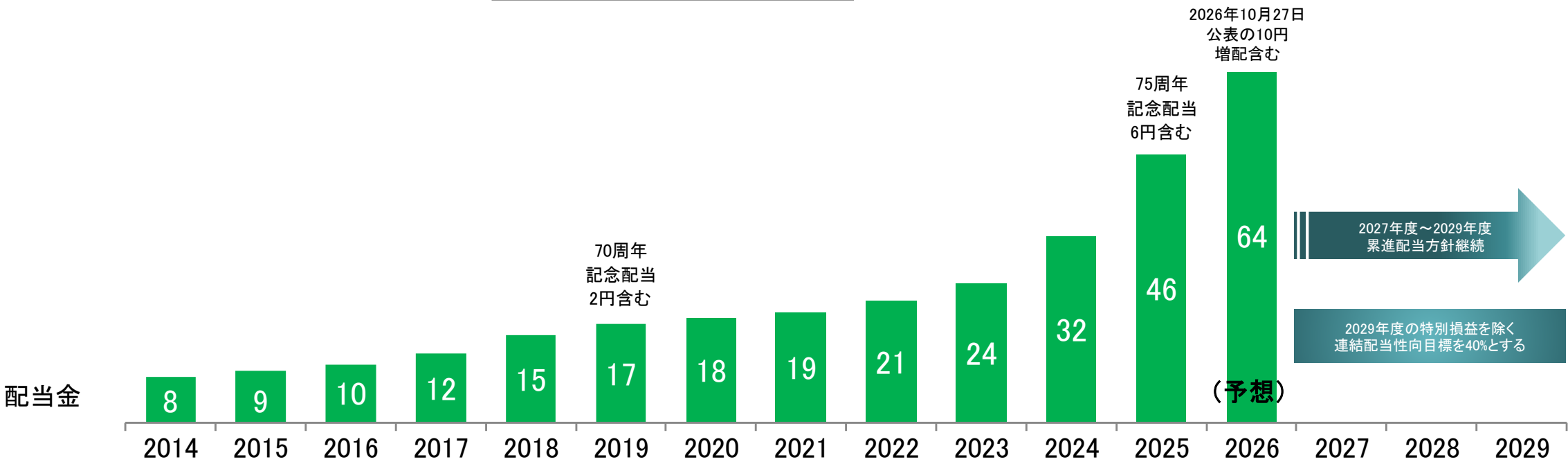


II. 第1次3ヵ年経営計画(2027年度～2029年度)

【株主還元】

基本的な考え方	財務の健全性や成長投資とのバランスを図りつつ、安定した配当の継続を基本に株主還元の拡充を図る
配当方針	・ 2029年度の特別損益を除く連結配当性向目標を40%とする ・ 本経営計画において、累進配当方針を継続し、目標に向け、継続的な増配を目指す

1株あたり配当金の推移(円)



配当金総額(百万円)	221	248	276	327	406	460	487	515	569	650	859	1,197	—
配当性向	22.1%	13.1%	14.0%	16.5%	13.8%	16.3%	20.3%	17.6%	13.5%	17.5%	21.6%	27.1%	36.6%
総還元性向	22.1%	13.1%	14.0%	31.5%	13.8%	16.3%	20.3%	17.6%	13.5%	17.5%	36.5%	53.8%	(67.4%)
自己株式取得(百万円)	—	—	—	300	—	—	—	—	—	—	601	1,199	(1,370)

※2026年度予想は、2026年9月末時点の自己株式取得額およびその取得額・株数を加味した配当性向・総還元性向(試算)を記載

(参考) 当社の強み

(参考) 当社の強み

農薬事業①

01 競争力の高い自社原体の保有

(1) カスガマイシン

- ・ 国内では有機農業で使用可能な数少ない農薬の一つ
- ・ 40カ国超で農薬登録を取得し、長年にわたり使用されてきた安全で安心な農薬であり、天然物由来という特性から国際的なサステナビリティの潮流にも合致しており、海外市場での成長を牽引



(2) イプフェンカルバゾン

- ・ 国内の主力水稻除草剤であるカイリキZ剤（有効成分：イプフェンカルバゾン）は、高いノビエ等への効果と安全性を強みに10万ha超で普及し、普及面積は日本一※
- ※公益財団法人 日本植物調節剤研究協会の統計より（2025年9月末）
- ・ 海外市場の成長ドライバーとして、アジアを中心に登録国を10カ国へ拡大しており、今後の成長ポテンシャルは高い

イプフェンカルバゾン登録国	
韓国	パナマ
ドミニカ	タイ
トルコ	ベトナム
台湾	ミャンマー
インド	インドネシア

農薬事業②

02 独自製剤の開発力と生産体制

(1) 独自製剤

- ・ 省力化ニーズに対応した「楽粒®」シリーズを6剤上市（2026年度普及面積前年比38%増）
- ・ 農薬を水に溶かす際の粉立ちを大幅に軽減し、素早くきれいに溶ける新たな顆粒水和剤「快粒®」シリーズの展開を推進



(2) 生産体制

- ・ 北海道工場に除草粒剤工場を新設（2022年度）
- ・ 7つの製造ラインを4ラインに集約する方針（2024年度比で1ライン撤去済み）
- ・ 4ライン集約と並行して、人員配置の最適化および省人型製造ラインの導入を進め、さらなる生産効率向上を実現



(参考) 当社の強み

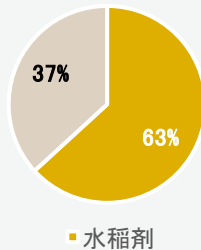
農薬事業③

03 水稻剤市場における強固な市場基盤

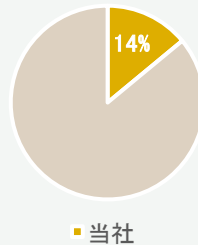
(1) 水稻剤市場

- ・ 当社の国内農薬売上に占める水稻剤の割合は60%超
- ・ 国内水稻剤市場で14%のシェアを有する等、高いプレゼンスを発揮

分野別構成比



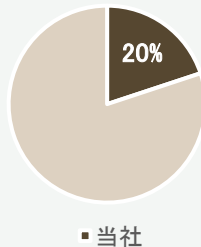
水稻剤市場シェア(当社推定)



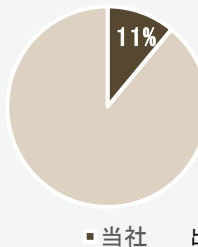
(2) 殺菌剤・除草剤市場

- ・ 主力原体のカスガマイシンを含む殺菌剤の同市場におけるシェアは20%と高い
- ・ イプフェンカルバゾンを含む除草剤の同市場におけるシェアは11%に伸長

殺菌剤市場シェア(当社推定)



除草剤市場シェア(当社推定)



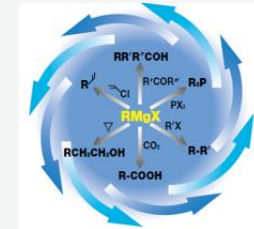
出所: クロップライフジャパンより

ファインケミカル事業①

01 世界有数のグリニャール反応の工業化技術と生産体制

(1) 有機合成技術

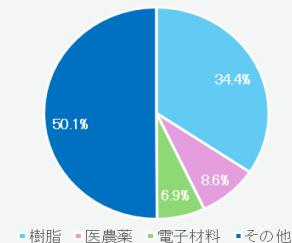
- ・ グリニャール反応の分野において、世界でも数少ない大規模生産技術・ノウハウを確立
- ・ 同反応は発熱量が大きく制御が難しいため、参入障壁が高い
- ・ 創業以来培ってきた豊富な知見と技術力を活かし、高品質・安定供給・価格競争力を実現



(2) TPPの生産体制

- ・ TPPはグリニャール反応をコア技術とする当社の主力製品であり、電子材料、医農薬等幅広い分野で採用
- ・ 中国に専用生産拠点を有し、生産能力は年3,000tと世界有数規模

TPP分野別売上高



中国張家港工場

(参考) 当社の強み

ファインケミカル事業②

02 半導体の前工程・後工程、医農薬分野で幅広い高機能材料を展開

(1) 高機能材料

- ・ 成長する半導体分野において、前工程で使用する主力のKrF向けフォトリソスト用高純度スチレン系モノマーを製造。さらにArF・EUV向けフォトリソスト用モノマーや後工程で使用する封止材用硬化促進剤等の幅広い製品を展開
- ・ グリニャール反応をコア技術として、半導体分野や医農薬分野で求められる高い基準を満たす高純度かつ高品質な素材を供給



(2) 事業分野が分散

- ・ 電子材料、医農薬、樹脂など事業分野が分散しているため、市場環境や需要変動の影響を分散でき、安定した業績確保が可能

ファインケミカル事業③

03 研究開発から商業生産まで一貫対応可能な技術力

(1) 高い技術力

- ・ 開発・製造現場を熟知した営業担当者が顧客ニーズを的確に捉え、開発・製造部門と連携して課題を解決



(2) 生産体制

- ・ 研究開発から商業生産まで対応可能なパイロットプラントと大小9つの合成プラントを保有
- ・ 先端技術を有する化学メーカーから受託し、少量多品目から量産型まで、幅広い品目・用途のニーズに柔軟に対応できる生産体制を構築



本資料に記載されている業績予想・将来の見通しに関する記述等に関しましては、現時点で得られた情報に基づいて判断・算定したものであり、実際の業績は、今後のマクロ経済動向および市場環境、並びに当社グループに関連する業界動向、またその他内部・外部要因等、さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。



北興化学工業株式会社

■ お問い合わせ先

北興化学工業株式会社

企画部 IR担当

電話: 03-6262-2056

FAX: 03-3279-5195